

みえケアマネ通信

VOL 15



ご挨拶

一般社団法人 三重県介護支援専門員協会
代表理事 奥田隆利



会員の皆様方におかれましては、当協会の活動に対しまして、ひとかたならぬご協力とお力添えを賜り、厚く御礼を申し上げます。平成27年4月18日の総会にて御承認をいただき、代表理事の重責を務めさせていただきましたこととなりました奥田でございます。

当協会は、平成14年8月にその前身である「三重県介護支援専門員連絡協議会」が設立され、平成18年6月には、現在の「三重県介護支援専門員協会」となり、昨年度には設立当初からの念願であった法人化へと進化してまいりました。

本協会を立ち上げていただいた初代の志田会長を支え、また日本協会の副会長の重責を果たされ、当協会の法人化へと多大なご尽力をいただいた高橋前会長の後を受け、微力ではございますが、皆様の協力のもと、より発展した協会にしていきたいと思っております。

2025年までのこの十年間でいかに地域包括ケアを実現し充実させていくかが重要であり、そのスタートの年として、「会員数の増大」、「資質向上のための研修の実施」、「協会活動のPR活動」、「支部活動の推進と連携」、「行政との意見交換」を引き続き実施して参ります。

当協会の主たる事業である研修事業におきましては、地域包括ケアシステムを推進するための会議や研修、そして地域ケア会議等の多職種との共同参画の場へ、介護支援専門員が胸を張って積極的に参加し、ケアマネジメント能力を発揮できる研修を積み重ねて行きたいと考えております。さらに、「スーパーバイザー派遣事業の実施」ならびに「東海ブロック研修会の三重県開催」という新たな事業への取組準備を進めて参ります。これまで以上に積極的に活動を展開して参りたいと存じますので、皆様方のより一層のご支援、ご協力を宜しくお願ひ申し上げます。

会員の皆様、各支部役員の皆様の意向を伺い、意見・提言を三重県協会から日本協会へそして国に伝えなければと考えております。これらをより効果的に行うために、より多くの会員の加入を募り組織力をあげる必要があります。そして、介護支援専門員の声、利用者様の声を伝え、よりよいケアマネジメントが行える環境づくり、そして誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる地域包括ケアシステムづくりに、医師会様をはじめとする専門職団体、三重県様ならびに各保険者様や関係機関様と共に努めて参ります。

役員一同、これからも会員の皆様と共により良い協会の運営につとめて参りたいと考えていますので、忌憚のないご意見・ご要望などをお聞かせいただければ幸いです。



總会報告

日 時 平成27年4月18日
13時00分～14時30分
会 場 三重県社会福祉会館 3階講堂

27年度の総会については、4月18日に三重県社会福祉会館において開催されました。当日は、津支部の南部支部長が議長を務め、5つの議案が上程されましたが、すべて原案通りに可決されました。

第1号議案は、昨年度の事業報告です。昨年度の会費を納入した会員は1,070名でしたが、昨年度末で退会予定の方も50名程いる状況です。第2号議案は、昨年度決算報告と監査報告です。数字を中心なので、詳しくはホームページでご確認ください。第3号議案は、今年度事業計画です。研修計画など詳しくは下記をご覧ください。特に、今年度と来年度は、東海ブロック研修会の開催当番県にあたります。通常事業に加えて、忙しくなりそうです。会員数も年度末には1,050名になるようにPR活動を行っていきます。第4号議案は、今年度予算案です。これも、ホームページをご確認いただければと思います。第5号議案は、2年任期である役員の改選です。代表理事については、選出された理事による互選の結果、2期4年間務められた高橋さんに代わり、松阪支部の奥田さんに担つて頂くことになりました。事務員の岡田さんが退職されることになり、総会終了後、花束が贈られました。

第一回研修会報告

～「地域包括ケアシステム」の構築に向けた介護支援専門員に対する期待～

地域包括ケアシステムの実践に向けた桑名市の取組み事例について、前桑名市副市长である田中謙一氏に介護支援専門員に対する期待を込めご講演いただきました。

まず、ケアマネジメントをめぐる10の指摘と今後の課題を提示された後、「介護支援専門員の資質向上と今後のあり方に関する検討会」での内容を示しました。そして、地域包括ケアシステムを構築する上で多職種や医療との連携を推進するために、介護支援専門員自身の資質向上や自立支援に資するケアマネジメントの構築、更にその環境整備に対し具体的な取組みが重要であると述べられました。

次に、「桑名市地域包括ケア計画」についての事例や統計・図等、多くの資料を提示し説明され、その基本理念は、高齢者の尊厳維持・自立のために介護予防に資するサービスの提供や在宅生活の限界点を高めるサービスの提供であることを語られました。また、「ときどき入院、ほぼ在宅」自分らしい生活の中で幸福な人生の最期を向かえるために地域支え合い体制づくり（地域コミュニティの再生）が必須であると強く語られました。2025年問題をかかる中、私達ケアマネジャーに向けて①各市町村に対する要望を明確にすること②地域のネットワークを知ること（誰が何をやっているカリサーチする）③介護保険で効果を上げていることを事例で示していくこと④全国の良いものを見る、シンポジウムに出席すること等、具体的に伝授して頂きました。

桑名市は地域ケア会議を「地域生活応援会議」として毎週開催されていることも紹介され、趣旨として「机上の空論から現場の実践」と「個人プレーからチームプレー」この2点が重要であると語られました。その上で介護支援専門員に対し「地域ケア会議」をよりよい仕事をするために「認めてもらう場」としていただきたいと加えられました。最後に、ケアマネジャーは地域包括ケアシステムの要であり大いに期待しているとエールを送られ講演を終えました。



平成27年度研修会の日程(予定)	開催予定期	テーマ	講 師	開催地区
	第3回 平成27年10月11日(日)	生活行為向上リハビリテーション	理学療法士会 作業療法士会	社会福祉法人 恩賜財団 済生会松坂総合病院 7階講堂
	第4回 11月	課題整理総括表・評価表の作成と活用	調整中	調整中
	第5回 12月6日(日)	介護支援専門員協会東海・北陸ブロック	鈴鹿医療科学大学学長 豊田 長康	桑名市民会館
	第6回 平成28年1月16日(土)	主任介護支援専門員フォローアップ研修	奥田 隆利 倉田 理	三重県人権センター
	第7回 1月23日(土)	施設ケアマネジメント研修(公開研修)	山田 剛 小川 竜司	三重県社会福祉会館 2階大会議室
	第8回 2月	医療連携	三重県立看護大学	調整中
	第9回 3月26日(土)	調整中	調整中	調整中

国への掛橋

三重県介護支援専門員協会 津支部

南部 好宏

6月21日に開催をされた社員総会に出席をさせていただきました。今回の社員総会では日本介護支援専門員協会の会長と理事を決める選挙がありました。すでに次期改定への議論は始まっていますので、私たち介護支援専門員の声を国政へ届けていただける方を選ぶ重要な選挙です。

私たち介護支援専門員の方は正念場を迎えていました。居宅介護支援事業所の市町村への指定権限移譲、居宅介護支援費・介護予防支援利用者負担費導入や医療介護連携、介護給付費適正化等対応すべき各種課題。また、地域包括ケアシステム実現へ向けた29年度介護保険改定、30年度診療・介護報酬においても、解決すべき課題が続きます。

私が選挙における立候補理由で興味を持ったのは、介護支援専門員・主任介護支援専門員の国家資格化であります。介護保険の要と言われながらも一方ではケアマネ不要論もあると聞きます。制度改正のたびに介護支援専門員の方が問われているのです。

私たち介護支援専門員の支援により利用者・家族の皆様が地域包括ケアのもと、住み慣れた地域での自立した暮らしが実現できるという目標達成のためにも国家資格化に向けた動きは必須であり、自分たちの資格を守っていく運動を介護支援専門員の職能団体として推し進める必要があると感じました。

そのためにも我々の声を国政に反映できるような強力な組織づくり、団結をしていかなければならぬと思います。幸いにも三重県支部においては原田氏が日本協会の副会長としてご尽力いただくことから日本協会と連携をして歩みを進めていくことができると言えています。



平成27年度 日本介護支援専門員協会 東海ブロック研修会お知らせと参加お願い

本年度の東海ブロックの運営については、三重県が担当県として進めていくことになりました。2年間、奥田会長にはブロック理事として日本協会に参画し、研修については実行委員会（県協会理事・地域支部より）を立ち上げてすすめることになりました。今回の研修テーマでは、現在の桑名市の取り組みを知り、私たちケアマネジャーがそれぞれの地域に合う形を創り上げていくための意見交換をし、今後に生かしていただきたいと企画しました。たくさんの皆様のご参加ご協力をよろしくお願い致します。

日 時：平成27年12月6日(日) 10:30～16:00 (受付10:00開始)

会 場：三重県桑名市民会館 小ホール 300名

テマ：新たな地域社会の創造～ケアマネジャーは地域包括ケアシステムとどう向き合うか～

☆基調講演①「桑名市地域包括ケア計画策定」

～全員参加型で2025年を乗り越えるための地域支えあい体制づくり～

講師 鈴鹿医療科学大学学長

桑名市地域包括ケアシステム推進協議会 座長 豊田長康氏

基調講演②「桑名市の取り組みから見えてきた課題と工夫」

講師 桑名市地域介護課 課長 高橋潔氏

☆東海4県の地域のケアマネジャーの取り組み発表（愛知・岐阜・静岡・三重）

☆シンポジウム

「ケアマネジャーは地域包括ケアシステムとどう向き合うか」

座長 三重県 奥田会長

シンポジスト 愛知・岐阜・静岡・三重 代表者

☆日本介護支援専門員協会活動報告 原田副会長

*三重県・桑名市市長よりご挨拶いただきます。

FOCUS ケアマネ

ケアマネジャー
からのメッセージ

File 11 ひとりケアマネの“そなえ”

居宅介護支援事業所 渚園四日市 中島英子

私自身と家族の減災への備えも含め勉強していきたいと考えました。以前からお世話になっている、みえ防災コーディネーター・三泗ブロック代表幹事羽間檀氏に講師、相談役としてお願いし、賛同してくれる仲間と『ケアマネ減災勉強会“そなえ”』を立ちあげました。活動の基本は最小限の負担で最大の効果がある減災活動の方法を探し実行すること、忌憚なく話し合える“場”として作っていくことです。今までの勉強会で検討した内容は

★災害が起こったときにケアマネとしての態勢が取れるようにケアマネ自身とその家族の減災のそなえをまず行う。

★ご利用者の状況把握と被災対策

- ご利用者の「被災時のイメージ」をして“被災カルテ”的作成をする。
- 災害に対してご利用者自身が備えることも大切であると考え“被災カルテ”を元に“そなえカルテ”的作成していく等です。

まだ勉強会としての開催は3回ですがメンバーで討議を重ね具体化し、日々の仕事の負担にならず、避難時支援をしてくださる方々に必要な情報を正確に伝えることができるようと考えています。小規模事業所のケアマネさん、一緒に話し合い活動の輪を広げて行きませんか。ちなみに4回目の勉強会は暑気払いと称してビールで乾杯です(*^*)v

皆様、日々の仕事お疲れ様です。

甚大な被害を出した東北大震災を教訓として様々な防災活動が行われています。私たちケアマネは高齢者、障害を抱えている方など災害時に支援のいる方たちと関わっています。ケアマネとして防災減災に対しどのような取り組みができるのかと思いつつ日々過ぎて行きました。私の職場はいわゆる『ひとりケアマネ』です。災害時自分が被災し身動きが取れない場合はどうしたらいいのか。ひとり暮らし、高齢世帯のご利用者の安否は、状況の把握はどのようにするのか等・・・



INFORMATION

みなさまもすでにご存じのように、三重県介護支援専門協会は、本年度から一般社団法人として新たなスタートを切りました。

当面の目標であった会員数1,000人を確保し、当協会の社会的な信用と、そこに所属する会員はもちろん、当協会に加入していない介護支援専門員も含めた介護支援専門員全体の地位向上のためには、当協会がよりオフィシャルな形で存在することは非常に重要です。反面、規模が大きくなり、オフィシャルなものになればなるほど、会員のみなさまからは遠い存在に感じられてしまわないかといった危惧も抱いております。

当協会は、会員数が増えても、法人となっても、会員一人ひとりのものであり、身近な存在であり続けなければなりません。

ニューフェイス! 新事務員さんご挨拶

- 7月から事務局に勤務しております片山亜也子と申します。趣味は旅行です。最近は家族の予定が合わず、機会が減ってしまいましたが、少しでも安く楽しい旅行を計画している時間も大好きです。
不慣れで右往左往する日々ですが、誠意ある対応を心がけ、頑張っていきますので、よろしくお願ひ致します。



編集後記

本誌が皆さまのお手元に届く頃は、秋の訪れを感じる頃でしょう。制度改革、総合事業、地域ケア会議...すべての理解が不十分なまま、あっという間に半期が過ぎようとしています。この先の行方はどうなるのだろうと不安に思いつつも、私たちケアマネは、目の前にいるご利用者の代弁者として、前進あるのみですね。ファイト p(^_^)q